

# ブラジル（2023年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [サンパウロ日本文化センター](#)

1. 2021年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

## 1.2021年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
261	942	20,732	2,189	10.6%	4,869	23.5%	1,705	8.2%	11,969	57.7%

（注）2021年度日本語教育機関調査は、2021年9月～2022年6月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

## 2.日本語教育の実施状況

### 全体的状況

#### 沿革

ブラジルの日本語教育は、1908年の移民開始による日系人子弟への継承語（国語）教育をその源流としている。第二次世界大戦前に、一時禁止された時期もあったが、戦後再開された。1963年にサンパウロ大学で日本語・日本文学講座（専攻課程）が開講され、高等教育機関での日本語教育が始まり、1989年には、サンパウロ州、パラナ州の教育局の言語教育センター（サンパウロ州はCEL-SP、パラナ州はCELEM-PR）で中等教育段階の生徒を対象とした日本語教育が開始された。また、2016年にはアマゾナス州にポルトガル語と日本語のバイリンガル中学校（2019年には隣接して高校も開校）、同年ブラジルの連邦大学で実施されている課外外国語講座「国境なき言語（以下、IsF）」プログラムに日本語講座も開講、2017年にはブラジリア特別連邦区（以下、DF）

の言語教育センター（CIL）、2023年にサンパウロ市教育局言語教育センター（以下、CELP）でも日本語講座が開講されるなど、日系人対象以外にも学校教育、学校教育外のさまざまな場面で日本語学習の機会が一般化している。

## 背景

上記のとおり、ブラジルの日本語教育は、日本人移民子弟の継承語教育を源流としており、現在、約200万人と言われる日系社会を背景に発展してきた。ただ、日系社会でも世代を経るにつれポルトガル語化が進み、国語の教科書を使用した「継承語教育」は、現在では一部の学校のみとなり、主流は「外国語としての日本語教育」となっている。一方、1990年以降、ポップカルチャーへの関心から日本語学習を始める非日系の学習者も増加している。また、1990年代のいわゆる「デカセギ」ブームから日本との往来が増加し、両親の職場に合わせて日本とブラジルを移動しながら成長する子ども達も少なからず存在する。

## 特徴

2021年度海外日本語教育機関調査（以下、2021年度機関調査）によると、学習者の約58%が学校教育以外の機関で学んでいる。1990年調査時には同割合が98%であったことを考えると、その比率は下がっているが、なお半数以上が学校教育以外で学んでいる。また、日本語教育の発展の歴史的経緯から、子どもの学習者が多いのが特徴で、初等・中等教育の学習者は2021年度機関調査で約34%を占める。また、日系社会が運営する学校では、文化継承、情操教育なども教育目的とする機関もあり、その内容も特徴的であるといえる。

## 最新動向

コロナ禍の中、初等中等教育及び高等教育機関がオンライン授業を開始した。そのため、オンライン教材、日本語学習アプリの需要が高まっており、州立学校附属の言語センターを運営する州教育局のサイトでは教師用、及び生徒用のオンライン教材のリンクが掲載されることになった。JFが開発した教材やアプリも共有している。JFは「まるごとオンラインコース」（自習コース）1-1、1-2ポルトガル語版を2020年10月に、JFサンパウロ日本文化センターは、2022年に『いろどり 生活の日本語』のポルトガル語版を公開した。

コロナ禍の状況が比較的落ち着いてきた2021年8月より、学校教育は一部の州で通学が復活し、2022年には大学も含めほぼ全校で対面授業（一部オンライン授業も実施している）に戻っている。しかし、2020年はコロナ禍で学期が止まった大学が多かったため、通常の学事予定に戻るのに休暇期間や学期を短縮するなど、数年かけて元の学事予定に戻ろうと対策を講じている。

日本語学校では、コロナ禍で授業がオンラインに切り替わり、学生数が減少した機関がほとんどだった。2023年現在、その落ち込みは回復傾向だが、コロナ禍発生前の水準に戻っていない機関が多い。授業も対面、ハイブリッド、オンライン授業と学習者のニーズをくみ取りながら実施している。また、コロナ禍の影響で2020～2021年中に閉校した機関も少なくない。

## 教育段階別の状況

ブラジルの教育段階は、「幼児教育（Educação Infantil）」「基礎課程（Fundamental I、II）」と「中等課程（Médio）」の3-9-3制。

ブラジルにおける義務教育は、幼児教育から基礎課程まで。「幼児教育」は4～6歳の3年間。「基礎課程」は

2段階から成る。「基礎課程 1」は 1-5 年生の 5 年間で【初等教育】に相当し、「基礎課程 2」は 6-9 年生の 4 年間で、【中等教育】（日本の中学校）に相当する。「中等課程」は 1-3 年生の 3 年間で【中等教育】（日本の高校）に相当する。

## 初等教育

公立校では、パラナ州クリチバ市の市立 1 校において、パラナ連邦大学日本語学科の教育実習の一環として提供されている。私立校では、初等教育段階前に保育段階や幼児教育から日本語教育を行う学校が存在する。このような私立校は、もとは日系移民のための学校であった機関が、バイリンガル校として再スタートしたことが多い。初等教育段階の日本語教育は、選択科目もしくは課外活動という位置づけがほとんどである。

## 中等教育

公立校では、「基礎課程 2」の 6 年生（日本の小学 6 年生に相当）から第 1 外国語（英語）が導入されている。第 2 外国語は、地域や学校によりスペイン語、フランス語、ドイツ語などから選択できるところもある。日本語教育は、サンパウロ州、パラナ州、ブラジリア連邦区、サンパウロ市の教育局が運営する言語教育センター傘下の機関で課外活動として行われているものと、正規科目としてバイリンガル教育を実施する学校がある。また、言語教育センターに日本語講座がない州の中には、課外活動として日本語教育を実施している学校も存在する。言語教育センターの日本語講座に関し、2023 年現在、サンパウロ州言語教育センター（CEL-SP）では 41 校、パラナ州言語教育センター（CELEM-PR）では 2 校、2017 年より本格開講された特別連邦区（以下、DF）の言語センター（CIL）では 8 校で日本語講座が開講されている。2023 年にはサンパウロ市教育局言語教育センター（CELP）にて日本語講座が新規開講された。

中等教育段階の公立校で日本語が導入されているバイリンガル校は、アマゾナス州の Djalma da Cunha Batista 州立学校（バイリンガル中学校、2016 年開校）及び Profa. Jacimar da Silva Gama 州立学校（バイリンガル高校、2019 年開校）で、他にリオデジャネイロ州立 José Maria de Brito Intercultural Brasil-Japão 高校（文化教育を中心とした日伯バイカルチュラル校、2022 年開校）もある。また、課外授業を実施している公立校としては、リオデジャネイロ州立大学付属高校、リオグランデ・ド・スル州の Tiradentes 州立学校がある。

なお、【初等教育】で述べた通り、日本語教育を導入している私立校のうち、「基礎課程 2」の 9 年生まで日本語を継続して学習できる学校は多いが、中等課程まで続けられる学校はわずかである。

【注】上記州立言語教育センター（CEL-SP、CELEM-PR、CIL）は、各州教育局が管内の中等教育機関施設内に生徒の課外活動や、地域住民への公開外国語講座として設置されているもので、独立した施設を有するものではない。一方、サンパウロ市では、市立中高とは別の施設として総合教育センター（文化、スポーツ等の課外活動を行う施設。一般市民も利用可能。CEU と呼ばれる）が市内各所に設けられており、日本語講座は CEU 内の言語教育部門（CELP）にて実施されている。

## 高等教育

日本語教育の位置づけとしては、専攻課程、卒業単位として認定される正規の選択科目、そして公開講座がある。

ブラジルの高等教育機関で日本語の専攻課程を持つ機関は 9 大学（通信教育の私立大学 1 校を含む）で、サンパウロ大学（州立）、リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア大学（国立）、パウリスタ州立大学アシス校、リオグランデドスル連邦大学、リオデジャネイロ州立大学、パラナ州連邦大学、アマゾナス連邦大学、クルゼイロ・ド・スル大学（私立）である。

サンパウロ大学は日本語・日本文学、特に古典文学を中心とした研究者養成、リオグランデドスル連邦大学は近現代日本文学を中心に翻訳者養成、そのほかの7校は教員養成に重点を置いている。大学院課程としては、唯一サンパウロ大学に修士課程があるものの博士課程はない。他に、正規科目としての選択科目があるのは、ブラジリア大学、カンピーナス大学（州立）の2校、学生向け任意選択科目のある大学が1校ある。

他に、所属学生以外でも受講できる公開講座として日本語講座を開講している大学が9校あり、また、前述の日本語専攻学科を持つ大学でも、公開講座としての日本語講座を開講している。

2016年10月、5つの連邦大学（リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、リオグランデドスル連邦大学、パラナ連邦大学、アマゾナス連邦大学）において、ブラジル教育省のプログラムである「国境なき言語（IsF）」にて日本語教育講座が開始された。この公開講座は、大学の国際化とそれに伴う高等教育の充実のための語学・文化理解教育を目的とし、その大学に在籍する学生と教職員を対象とした。その後、2017年にパウリスタ州立大学アシス校が、2019年後期からは、リオグランデドスル連邦大学からチューター（日本語を専攻する学生が務める日本語指導員）を派遣することで、日本語専攻科がなくても日本語講座を提供する大学（ポルトアレグレ健康科学大学）が1校加わり、合計7大学で講座が実施された。

IsFは、2019年より全国連邦高等教育機関学長協会（ANDIFES）が運営主体となり、2020年はコロナ禍で停止していたが、2021年に5連邦大学（リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、リオグランデドスル連邦大学、パラナ連邦大学、アマゾナス連邦大学）を受講対象校として全面的にオンライン講座へ移行し再開した。2022年、受講対象校が前述の5連邦大学から全国の連邦大学へと拡大され、多くの連邦大学生が受講可能となった。2023年現在、55の連邦大学が日本語講座受講対象校となっている。

## 学校教育以外

「学校教育以外」の内訳としては、日系団体経営の日本語学校、民間の外国語学校、大学における公開講座などがある。学習者は20～30代の学生や社会人が多いが、児童・生徒も少なくない。地方都市では、学習者数は4～5人から20～30人規模で、土曜日のみ開講の機関も多い。地方都市でも中核的存在の機関や公開講座の場合は、100人以上在籍している機関もある。

## 3.教育制度と外国語教育

### 教育制度

#### 教育制度

3-9-3制幼児教育〔4～6歳〕3年、基礎教育9年〔日本の小、中学校に相当〕、中等教育3年〔日本の高校に相当〕。

2005年までは8-3制であったが、2006年から現行制度となった。義務教育段階は幼児～基礎教育（ブラジルでの呼称は「幼児教育（Educação Infantil）」「基礎課程（Ensino Fundamental）」）。スクールカレンダーは、一般に2～6月が第1学期、8～12月が第2学期、7月が冬休み、12～1月が夏休み期間である。

多くの「基礎課程1、2」は午前・午後の2部制、「中等課程（Ensino Médio）」と大学は午前・午後・夜間の3部制を採用している。ブラジル政府は学校教育を2、3部制から全日制へ漸進的に移行する計画を推進中であるが、移行校はまだ一部に限られている。公立校を運営している州、自治体の教育局の中には、前述のCEL-SP、CIL、CELEM-PR、CELPのように、授業のない時間帯に課外活動、文化・スポーツ活動を実施する専門の部署を設けているケースもある。ブラジルでは、働きながら学校・大学・大学院に通うことはごく普通のこととされ、

就職に際しても 3 部制による差別はない。

## 教育行政

公立校の授業料は、大学まですべて無料である。教育局（州および自治体）または教育省（連邦政府）が管轄する。

## 言語事情

公用語・国語はポルトガル語であり、全土にわたってポルトガル語が通用する。移民が多い国であることから方言などの地域的特徴が残る。今も移民言語（日本語、ドイツ語）が日常的に使われている地域もある。

## 外国語教育

前述したように、「基礎課程 2」の 6 年生から第 1 外国語として英語が、「中等課程」の 1 年生から第 2 外国語が導入されている。第 2 外国語の選択権は各学校にあるが、最も多く選ばれているのはスペイン語である。

### 外国語の中での日本語の人気

英語、スペイン語を学ぶ人が多いが、ほかには、フランス語、ドイツ語、イタリア語などに人気がある。東洋言語としては日本語の人気が一番高いが、近年中国語や韓国語を教える学校も増えてきた。課外活動として外国語を教えるサンパウロ州教育局の言語センター（CEL-SP）によると、2022 年度に開講している学校数を多い順に並べると、スペイン語、英語、フランス語、イタリア語、日本語、ドイツ語、中国語の順となる。なお、CEL-SP のコースには、他に手話、外国語としてのポルトガル語講座も開講されている。

また、パラナ州教育局の言語センター（CELEM-PR）では、スペイン語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、日本語、中国語、ウクライナ語、ポーランド語の順にコース数が多い。

ブラジリア連邦区の言語センター（CIL）では、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語が正式な科目として導入され、日本語は 2017 年度より正式に提供されるようになった。

### 大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

## 4. 学習環境

### 教材

児童・生徒を対象にした継承語教育を中心に第二次世界大戦以前から教材開発が行われ、1990 年代以降は外国語教育への移行を目指した教材も開発された。現在もそれらを使っているところもあれば、日本で発行された教材を使っているところもある。

### 初等教育

低学年では、絵カードや文字カードやぬりえ、歌、踊りを中心に遊びを通して日本語に慣れる指導を行っている。

る機関が多い。

1年生から学校で独自に開発した教材を使用している学校もあり、また、『きそにほんご』（ラボ・日本語）や、『1・2・3日本語で話しましょう』（日本語普及センター教科書編集委員会（日本語普及センター））などブラジルで開発された教材のほか、『日本語ドレミ』（（公財）海外日系人協会、独立行政法人国際協力機構（JICA））や、『こどものにほんご』（ひょうご日本語教師連絡会議、子どもの日本語研究会（スリーエーネットワーク））など日本で開発された教材も使われている。これらをもとにした自作プリントも使われている。

## 中等教育

サンパウロ州教育局の言語センター（CEL-SP）と、アマゾナス州の Djalma da Cunha Batista 州立学校（バイリンガル校）では、教育局の要請により JF サンパウロ日本文化センターが協力して制作した教科書『ことばな』が使用されている。そのほかの公立の学校では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク））、『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』（AJALT）、『きそにほんご』（ラボ・日本語）が使われている。私立の学校の場合、前述した教材に加え、自作プリントを作成し使用している。日系人子弟を中心とする学校では、『新しい国語』（東京書籍）も使用されている。

## 高等教育

日本語専攻の機関では半数以上で『みんなの日本語』（前出）が使用されている。そのほか『まるごと』『いろいろどり』（国際交流基金）、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（研究社）、『生きた素材で学ぶ新・中級から上級への日本語』（ジャパントイムズ）、『Intermediate Kanji Book』（凡人社）、『中級から上級への日本語なりきりリスニング』（ジャパントイムズ）、『留学生のための理論的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）、『上級へのとびらーコンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』（くろしお出版）、自作教材、などが使用されている。

## 学校教育以外

ブラジルで開発された『きそにほんご』（前出）、『1・2・3日本語で話しましょう』（前出）のほか、日本で開発された『みんなの日本語』（前出）、『大地』（スリーエーネットワーク）、『にほんごドレミ』及び『にほんごジャンプ』（海外日系人協会、独立行政法人国際協力機構（JICA））、『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』（前出）、『こどものにほんご』（前出）、『にほんご1・2・3』（アルク）などが使用されている。近年、『まるごと』『いろいろどり』（前出）への関心が高まっている。

## IT・視聴覚機材

都市部を中心に ICT 化が進んでおり、オンライン授業も実施されている。一方、公立の日本語教育機関では、PC、インターネット、WiFi 設備が充実していないところも多い。その中でブラジルなどポルトガル語圏を対象に、民間日本語学校や個人が日本語学習をテーマとした独学者向け YouTube チャンネル、Instagram アカウントを開設している。

## 5. 教師

### 資格要件

## 初等教育

ブラジル国籍及びブラジルの教員資格

## 中等教育

ブラジル国籍及びブラジルの教員資格

なお、課外講座である各州・自治体「言語教育センター」日本語教師の採用状況は、管轄教育局によって異なる。例えば CIL では、CIL 専任（常勤）教師としての採用試験が実施されている。CEL-SP、CELEM-PR では他教科の教師が日本語科目を兼任する場合と、非常勤職員として雇用される場合がある。CELP は、サンパウロ市立学校の教員として3年以上採用されている現職教師が対象であり、専任教師として選考される。

## 高等教育

国籍、教員資格規定なし。応募資格は大学によって様々である。例えば修士課程修了以上の学歴を有するもの、博士課程修了以上の学歴を有するもの、大学院で文学、言語学、応用言語学を専攻しているもの、大学で日本語を専攻しているもの、あるいは文学部または関連分野の学位を有するもの、などである。日本語科目の場合ブラジル国内に博士課程が存在しないため、今なお修士号取得者の教員も少なくないが、関連領域（言語学や文学）での博士号取得者が増えてきている。

## 学校教育以外

特に資格が問われず、日本語が話せれば教師になれるケースもあるが、条件は機関によりさまざまである。日本語学校の中には、試用期間に教師トレーニングを実施する機関もある。日系団体経営の日本語学校では長年、日本語教師は日系人の職業と見なされてきたが、1990年代からはブラジルの大学の日本語学科を卒業した人など、非日系人の教師も増えてきた。

## 日本語教師養成機関（プログラム）

ブラジルの大学の日本語学科のほとんどは、卒業要件として学校教員養成課程の単位取得を含めている。リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、パウリスタ州立大学アシス校、リオデジャネイロ州立大学、パラナ連邦大学、アマゾナス連邦大学で、教育実習も行われている。

そのほか、公認の資格ではないが、ブラジル日本語センター（以下、CBLJ）が日本語教師養成講座を有料で開講している。

## 日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

結婚等による永住予定の日本人教師と、国際協力機構（以下、JICA）や日本の地方自治体を通じての期限付き派遣教師が存在する。ネイティブ教師は、会話指導や日本文化の最新情報の提供を期待されている。そのほか、日本語を習得して帰国した児童・生徒の日本語力の維持などを担当している場合もある。

## 初等教育

ブラジル国籍と、ブラジルの教員資格が必要なため、日本人教師の雇用は確認されていない。ただし、JICA ボランティアが派遣されている教育機関では、JICA ボランティアが有資格者と共にアシスタントとして教室に入

ることがある。

### 中等教育

上記【初等教育】に同じ。

### 高等教育

日本でポルトガル語やブラジル研究を専攻した人、JICA等の派遣を終了したあと永住した人などが、若干名雇用されている。

### 学校教育以外

ネイティブ教師のほとんどが学校教育以外で雇用されている。

### 教師研修

中等教育の教師を対象とした研修は、JF サンパウロ日本文化センターにおいて、1年に1回実施している。学校教育以外に区分される日系の日本語学校の場合は、地域・州ごとに定期研修会を行っているほか、CBLJが実施する全伯日本語教師合同研修会や、近隣諸国からも参加がある汎米日本語教師合同研修会にも参加できる。高等教育の教師を対象とした研修会はないが、地域の研修会に個人的に参加する教師もいる。

## 6.教師会

### 日本語教育関係のネットワークの状況

2002年4月に大学の日本語・日本研究の研究者が中心となってブラジル日本研究学会（ABEJ）が発足した。2年に1回、会場持ち回りで3日間の大会を開催している。言語・教育、文学、文化の3つのテーマを交替で扱う。

日系社会内の日本語学校に関しては、ブラジル日本語センター（CBLJ）が、ネットワーク形成、学習者支援プログラム、教師養成講座及び現職教師研修を行っている。日系社会内の日本語学校のネットワークは地域ブロックごとにブラジル全体で20近く存在する。

### 最新動向

特になし。

[教師会・学会一覧へ](#)

## 7.日本語教師派遣情報

### 国際交流基金からの派遣

#### 日本語上級専門家

JF サンパウロ日本文化センター 1名

#### 日本語専門家

JF サンパウロ日本文化センター 2名

### 国際協力機構（JICA）からの派遣（2023年10月現在）

#### 日系社会青年海外協力隊・日系社会海外協力隊

- アチバイア日本語学校 1名
- ジャカレイ日本語学校 1名
- サントス日本人会日本語学校 1名
- ピエダーデ日本語学校 1名
- マリリア日本語モデル校 1名
- ツパン日本語学校 1名
- UCENS 日本文化センター 1名
- バストス日本語学校 1名
- 第一アリアンサ日本語学校 1名
- 越知日伯学園 1名
- リオデジャネイロ州日伯文化体育連盟 1名

#### その他からの派遣

##### 鳥取県・日本語指導員派遣事業

第二アリアンサ鳥取村日本語学校 1名

## 8. シラバス・ガイドライン

#### 初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

#### 中等教育

ガイドラインを州・市単位で有するが、英語やスペイン語など諸言語に共通の一般的なものである。なお、カリキュラムは学校単位でかなり自由に設定できる。

#### 高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

#### 学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

## 9. 評価・試験

到達度を測る基準として日本語能力試験が広く認識されている。年 2 回（実施都市によっては 1 回）の実施。他に、CBLJ が実施している「日本語センターテスト」がある。これは、日本語能力試験 N5 レベル前の試験として実施されており、子どもから成人まで受験可能。その他には、2009 年から公益財団法人日本漢字能力検定協会ブラジル連絡事務所による、日本漢字能力検定試験が行われている。また、2018 年から J-TEST が実施されている。

## 10.日本語教育略史

1908 年	笠戸丸移民（第 1 回日本移民）
1915 年	大正小学校創立
1938 年	外国語学校閉鎖令（1947 年以降徐々に再開）
1956 年	日伯文化連盟創立
1963 年	サンパウロ大学に日本語日本文学講座（専攻課程）開設
1968 年	サンパウロ大学に日本文化研究所設立
1979 年	リオデジャネイロ連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
1985 年	日本語普及センター（現、ブラジル日本語センター CBLJ）設立
1986 年	リオグランデドスル連邦大学に日本語・翻訳講座（専攻課程）開設
1989 年	サンパウロ州、パラナ州の州立学校（中等教育段階）で日本語講座開講
1992 年	パウリスタ州立大学アシス校に日本語講座（専攻課程）開設
1994 年	JF サンパウロ日本語センター（現、JF サンパウロ日本文化センター）設立
1996 年	サンパウロ大学に日本語・日本文学・日本文化大学院（修士課程）開設
1997 年	ブラジリア連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
2002 年	ABEJ（ブラジル日本研究学会）発足
2004 年	リオデジャネイロ州立大学に日本語講座（専攻課程）開設
2009 年	パラナ州連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設

<b>2011 年</b>	ブラジリア連邦特別区の州立学校（中等教育段階）で日本語講座開講
<b>2011 年</b>	アマゾナス連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
<b>2016 年</b>	リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、リオグランデドスル連邦大学、パラナ州連邦大学、アマゾナス連邦大学に「国境なき言語」プログラム日本語講座開設 アマゾナス州立 Djalma da Cunha Batista 中学校（全日制バイリンガル校）開校
<b>2017 年</b>	サンパウロ州立パウリスタ大学アシス校に IsF 日本語講座開設
<b>2018 年</b>	J-TEST 実施開始
<b>2019 年</b>	アマゾナス州立 Profa. Jacimar da Silva Gama 高校（全日制バイリンガル校）開校
<b>2021 年</b>	IsF の運営主体がブラジル教育省から ANDIFES へ移管。5 つの連邦大学の学生へ日本語講座の提供を開始
<b>2022 年</b>	リオデジャネイロ州に Colégio Estadual José Maria de Brito Intercultural Brasil-Japão（バイリンガル校）開校 IsF 外国語コース提供対象が 52 連邦大学へ拡大
<b>2023 年</b>	IsF 外国語コース提供対象大学が 55 連邦大学へ拡大 サンパウロ市教育局言語教育センター（CELP）にて日本語講座新規開講